

[Search Forms](#)

[Search Results](#)

[Help](#)  [Generate Collection](#)

[User Searches](#)

[Preferences](#) Entry 12 of 24

File: DWPI

Mar 7, 2000

[Logout](#)

DERWENT-ACC-NO: 2000-266514

DERWENT-WEEK: 200025

COPYRIGHT 2004 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Elastase inhibitor for maintaining elastic texture and youthfulness of skin, comprises mixed extracts of gauva leaf, Lagerstroemia speciosa leaf, jelly fig fruits and/or jatoba fruit skin

PATENT-ASSIGNEE: MIKIMOTO SEIYAKU KK (MIKIN)

PRIORITY-DATA: 1998JP-0244795 (August 31, 1998)

[Search Selected](#)  [Search ALL](#)  [Clear](#)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> <a href="#">JP 2000072649 A</a>	March 7, 2000		006	A61K007/48

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
<a href="#">JP2000072649A</a>	August 31, 1998	1998JP-0244795	

INT-CL (IPC): A61 K 7/00; A61 K 7/48; A61 K 35/78

ABSTRACTED-PUB-NO: [JP2000072649A](#)

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A elastase inhibitor comprises mixed extracts of gauva leaves Lagerstroemia speciosa leaves, jelly fig fruits and/or skin of jatoba fruit.

USE - Elastase inhibitor is used for applying on the skin to maintain elastic texture and youthfulness of the skin. ACTIVITY - Dermatological.

MECHANISM OF ACTION - Inhibits elastase. Elastase inhibitor (I) (0.1 ml) containing extracts of 10 g of jelly figs (with final concentration of 0.033%) was tested for elastase inhibition using elastase (3U) obtained from pig pancreas. The elastase inhibition rate of (I) was measured to be 86.0%.

ADVANTAGE - Elastase inhibitor is very effective and safe which reduces wrinkles and provides glow to the skin.

ABSTRACTED-PUB-NO: [JP2000072649A](#)

EQUIVALENT-ABSTRACTS:

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

DERWENT-CLASS: B04 D21

CPI-CODES: B04-A08C2; B04-A10B; B04-A10G; B14-D07C; B14-N17; D08-B09A;

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-72649

(P2000-72649A)

(43)公開日 平成12年3月7日(2000.3.7)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 6 1 K 7/48  
7/00

識別記号

35/78

F I

A 6 1 K 7/48  
7/00

ADA

35/78

マーク一(参考)

4 C 0 8 3  
K 4 C 0 8 8

W

J

ADAC

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 6 頁)

(21)出願番号

特願平10-244795

(22)出願日

平成10年8月31日(1998.8.31)

(71)出願人 000166959

御木本製菓株式会社  
三重県伊勢市黒瀬町1425番地

(72)発明者 高木 啓二

三重県一志郡白山町二本木赤坂1001番地の  
240

(72)発明者 下村 健次

三重県伊勢市船江3丁目16番32号

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 エラスター阻害剤

(57)【要約】 (修正有)

【解決手段】 グアバの葉、オオバナサルスベリの葉、愛玉子の果実、ジャトバの果皮の1種以上の抽出物を配合したエラスター阻害剤。

【効果】 上記のエラスター阻害剤は安全性が高く、エラスターを阻害し、皮膚に適用すると、シワの減少や肌のつや、肌のはりを改善し有効な製剤を作成することができる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】グアバの葉、オオバナサルスベリの葉、愛玉子の果実、ジャトバの果皮の1種以上の抽出物を配合したエラスターーゼ阻害剤

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は皮膚の弾力を保持し、若々しい肌を保つエラスターーゼ阻害剤に関する。

## 【0002】

【従来の技術】グアバはパンジロウ或いは番石榴と呼ばれ、ふともも科、パンジロウ属の植物で、学名を*Psidium guajava L.* という。一般には、その実を生食、ジャム、ジュース等で食する。分布は、原産は熱帯アメリカであるが、熱帯、亜熱帯の各地で広く栽培され、日本では九州南部で栽培され、琉球諸島では野生化している。また、薬として腸炎、赤痢、消化不良性下痢に用いられている。

【0003】オオバナサルスベリ (*lagerstroemia speciosa*) は、ミソハギ科サルスベリ属の植物でインドに生える半落葉高木である。このオオバナサルスベリの根は、下痢に、樹皮、葉は下剤として利用されている。

【0004】愛玉子は学名を *Ficus awkeotsang* Makino、和名をカンテンイタビと称する植物の果実を乾燥させたものである。原産地は主として台湾南部の標高 1000~2000m に自生している高木で、台湾では水に入れてもみ、砂糖を加えて清涼飲料として愛用されている。さらに本発明者らによって、美白作用、ヒアルロニダーゼ活性阻害効果等があることを見いだされている。

【0005】ジャトバは学名 *Hymenaea courbaril* といい、熱帯アメリカに分布する高さ 30~40m の高木で、樹皮は淡灰色のまめ科の植物である。

## 【0006】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】肌が若々しく見えない原因是いろいろありますが、その1つに皮膚の物理的構造を保っているエラスチンがあります。太陽光（紫外線）や乾燥などや老化によってエラスチン破壊酵素であるエラスターーゼが過剰になることによってエラスチンが変性・破壊されることが、皮膚の弾力性低下につながり、シワやタルミの原因になっている。従って、エラスターーゼの働きを抑えて、皮膚に弾力やハリを与えるエラスチンの変性・破壊を防止することがシワやタルミを押さえ、ひいては皮膚の老化防止に寄与することは明確である。このため、安全性の高い植物の抽出物より、エラスターーゼの働きを押さえるものを鋭意検討した結果、グアバの葉、オオバナサルスベリの葉、愛玉子の果実、ジャトバの果皮の抽出物にその効果が高いことが判明した。

【0007】グアバの葉、オオバナサルスベリの葉、愛玉子の果実、ジャトバの果皮の抽出方法は水、親水性有

10

20

30

40

50

機溶媒の単独或いは組み合わせで抽出すればよいことが判明した。親水性有機溶媒としては、エタノール、メタノール、ブタノール、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、それ以上のポリエチレングリコール類、プロピレングリコール、ジプロピレングリコール、それ以上のポリプロピレングリコール類、1,3-ブチレングリコール、1,4-ブチレングリコール等のブチレングリコール類、グリセリン、ジグリセリン、それ以上のポリグリセリン類などが例示される。

【0008】このように抽出したグアバの葉、オオバナサルスベリの葉、愛玉子の果実、ジャトバの果皮の抽出物を必要により溶媒を留去して、さまざまな剤型に配合することができる。例えば、ローション類、乳液類、クリーム類、軟膏類、パック類、入浴剤の形態にすることができる。これらの剤型を処方化するために、天然動植物油脂例えは、オリーブ油、ミンク油、ヒマシ油、バーム油、牛脂、月見草油、ヤシ油、ヒマシ油、カカオ油、マカデミアナッツ油等；蠟例えは、ホホバ油、ミツロウ、ラノリン、カルナウバロウ、キャンドリラロウ等；高級アルコール例えは、ラウリルアルコール、ステアリルアルコール、セチルアルコール、オレイルアルコール等；高級脂肪酸例えは、ラウリン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、オレイン酸、ベヘニン酸、ラノリン脂肪酸等；高級脂肪族炭化水素例えは、流動パラフィン、固体パラフィン、スクワラン、ワセリン、セレシン、マイクロクリスタリンワックス等；合成エステル油例えは、ブチルステアレート、ヘキシルラウレート、ジイソプロピルアジペート、ジイソプロピルセバケート、ミリスチン酸オクチルドデシル、イソプロピルミリステート、イソプロピルパルミテートイソプロピルミリステート、セチルイソオクタノエート、ジカプリリン酸ネオペンチルグリコール；シリコーン誘導体例えは、メチルシリコーン、メチルフェニルシリコーン等のシリコーン油

【0009】界面活性剤としては、アニオン性界面活性剤例えは、アルキル硫酸塩、脂肪酸塩、アルキルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテルのリン酸塩や硫酸塩等；非イオン性界面活性剤例えは、グリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリグリセリン脂肪酸エステル等；両面活性剤例えは、アルキルベタイン、ホスホベタイン、ホスファチジルコリン、ホスファチジルエタノールアミン、ホスファチジルセリン、ホスファチジルグリセロール、ホスファチジルイノシトール及びこれらのリゾ体の他、ホスホファチジン酸とその塩

【0010】多価アルコール例えは、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、それ以上のポリエチレングリコール類、プロピレングリ